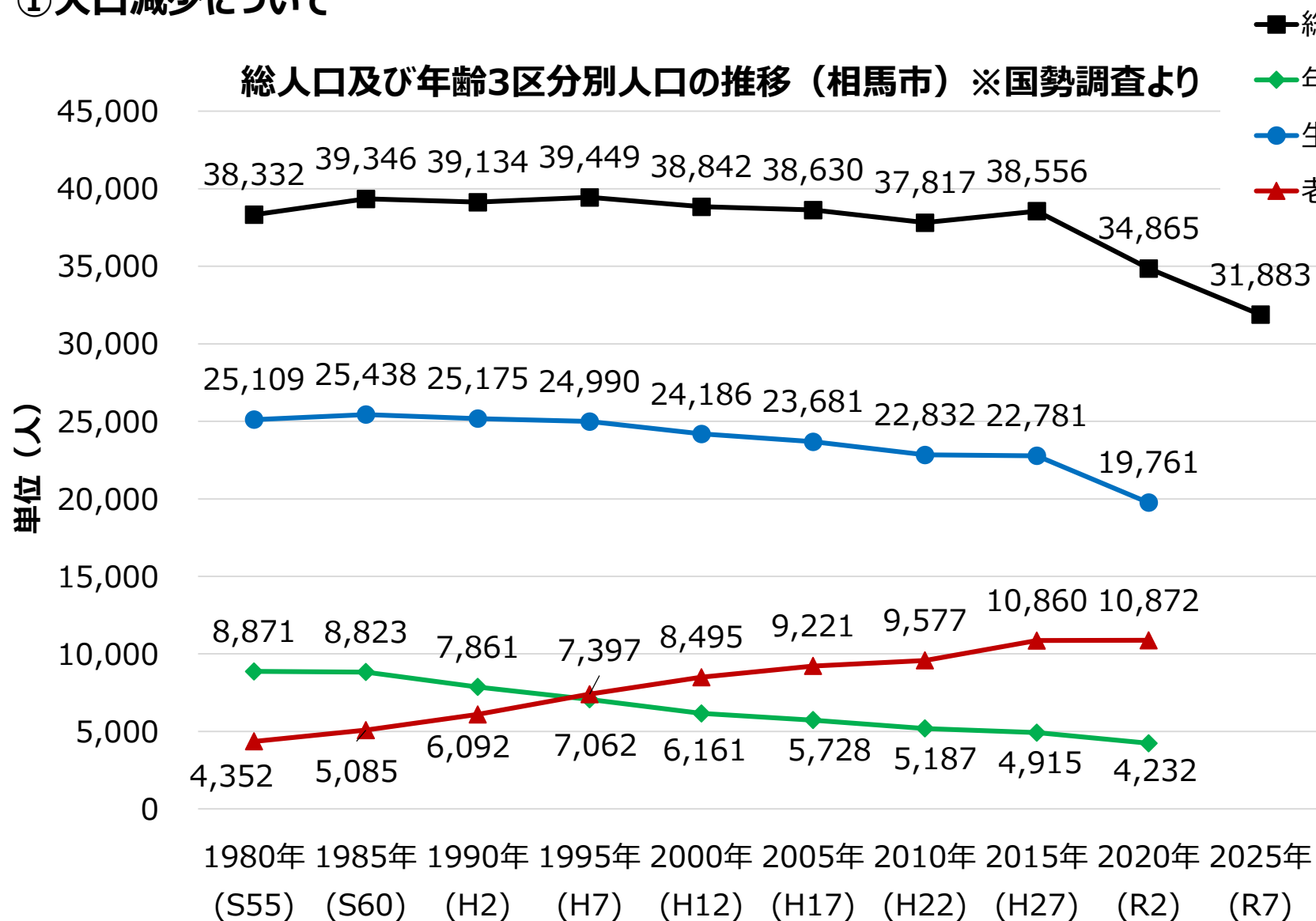


4. 市の現状と課題

①人口減少について

総人口及び年齢3区分別人口の推移（相馬市）※国勢調査より



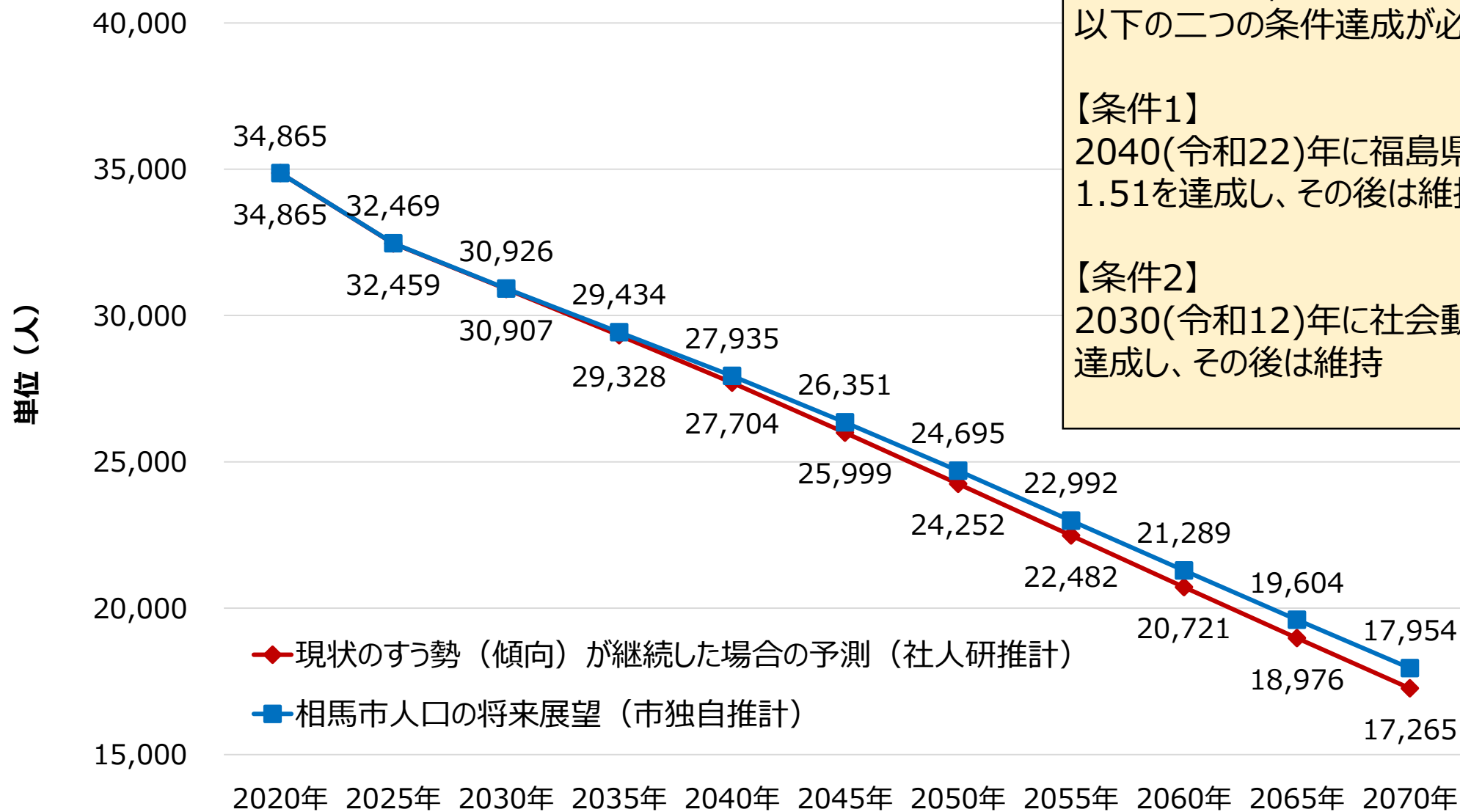
・単なる人口の減少ではなく、人口構成の変化(少子高齢化)を伴う減少

・出生数の推移
2007年：372人
2017年：265人
2024年：138人

・若者の数が減少しており、婚姻数も減少している。
出生数は今後も減少の傾向が続くと想定される。

4. 市の現状と課題

②人口の将来展望について「相馬市人口ビジョン3.0」(令和7年3月策定)より



2050年に25,000人程度の人口を維持する目標
以下の二つの条件達成が必要となる

【条件1】
2040(令和22)年に福島県民の「希望出生率」
1.51を達成し、その後は維持

【条件2】
2030(令和12)年に社会動態±0（ゼロ）を
達成し、その後は維持

4. 市の現状と課題

③ 今後10年程度の未来に予想される影響と課題

項目	予想される影響	課題
少子高齢化を伴う人口減少	・地域産業・文化の担い手不足や技術継承の困難化 ・市場の縮小による地域経済の衰退 ・公共交通の衰退と交通空白や買い物困難者の発生	・関係人口増加の取組 ・人口の社会減の抑制 ・公共交通サービスの再構築
財政の硬直化とインフラや公共施設の老朽化	・税收減少と社会保障費増加による財政の硬直化 ・インフラや公共施設の維持管理が重荷に ・老朽化による道路陥没などの事故のリスクが高まる ・人口減少による技術系職員などの人材不足も影響	・公民連携による民間資金やノウハウ活用 ・施設の集約、再編、コンパクトシティ化 ・施設やインフラの予防保全への転換 ・広域連携による管理
気候変動に伴う災害の激甚化	・洪水や土砂災害の頻発化・激甚化 ・猛暑日、酷暑日が全国的に増加	・流域全体での対策「流域治水」への転換 ・比較的穏やかな気候を生かす
複雑な国際関係や、円安の進行など	・輸入に依存する食料・エネルギー・生産資材価格高騰 ・インバウンド需要は拡大の好機	・一次産業の振興 ・エネルギー地産地消の推進 ・稼げる地域産業への転換
AIの進展（生成AIやフィジカルAI）	・人手不足を補う生産性向上が期待	・AIを使いこなせる人材の確保・育成
若者・女性の流出	・若者が地方から去る背景⇒「昭和モデル」の生きづらさ ・多様な生き方を尊重できない地域は選ばれない	・若者や女性の参画推進 ・柔軟な働き方の導入や意識改革

5. 本日のゴールの共有

- 皆さんが思う市の現状についての想いと、10年後の相馬市の「ありたい姿」をお聞かせください。
- SOUNDカードを使い、グループで「対話」しながら進めていただきます。
- ありたい姿は人それぞれです。多様なご意見が出ることを期待しています。

●「対話」とは？

論破する（議論）でも、ただ喋る（雑談）でもなく、お互いの目線・立場からお互いを理解し合っ
てステップアップするための話し合いです。

【お約束1】**否定禁止！**

【お約束2】**論破禁止！**

【お約束3】**対話しましょう！**

●多様な意見のまとめ方

皆様のご意見は、Google社の生成AI（Gemini Notebook）が
全ての内容を正確に読み込み、分析・集約をします。

- ・模造紙に書いた字をAIが読み取ります（**大きく丁寧に書いてください！**）
 - ・書いた文字だけではなく、話し合いの内容もしっかり聴くためボイスレコーダーも使用します
- まとまったご意見は、後日、参加者の皆さんに共有いたします。



【参考】職員ワークショップ成果物（AIまとめ）

10年後の相馬市：誇りと希望が循環する未来

誇りと次世代をつなぐ「心の豊かさ」

誇りと郷土愛：歴史・文化の継承



10年後の相馬市
ありたい姿

安心と活力を支える「持続可能な基盤」

健康と安心：医療・行政の充実



次世代と教育：子どもの笑顔と若者の還流



郷土教育を通じて相馬への愛着を育み、
一度離れても「戻りたい」と思える環境を創出

“相馬に住んでいて
良かった”と
思えるまちへ”

市民一人ひとりが自己実現でき、
互いに寄り添いながら
幸福感を実感できる社会

産科・小児科の充実と、デジタル化（DX）により
市民一人ひとりに寄り添う行政サービス

賑わいと産業：活力ある地域経済



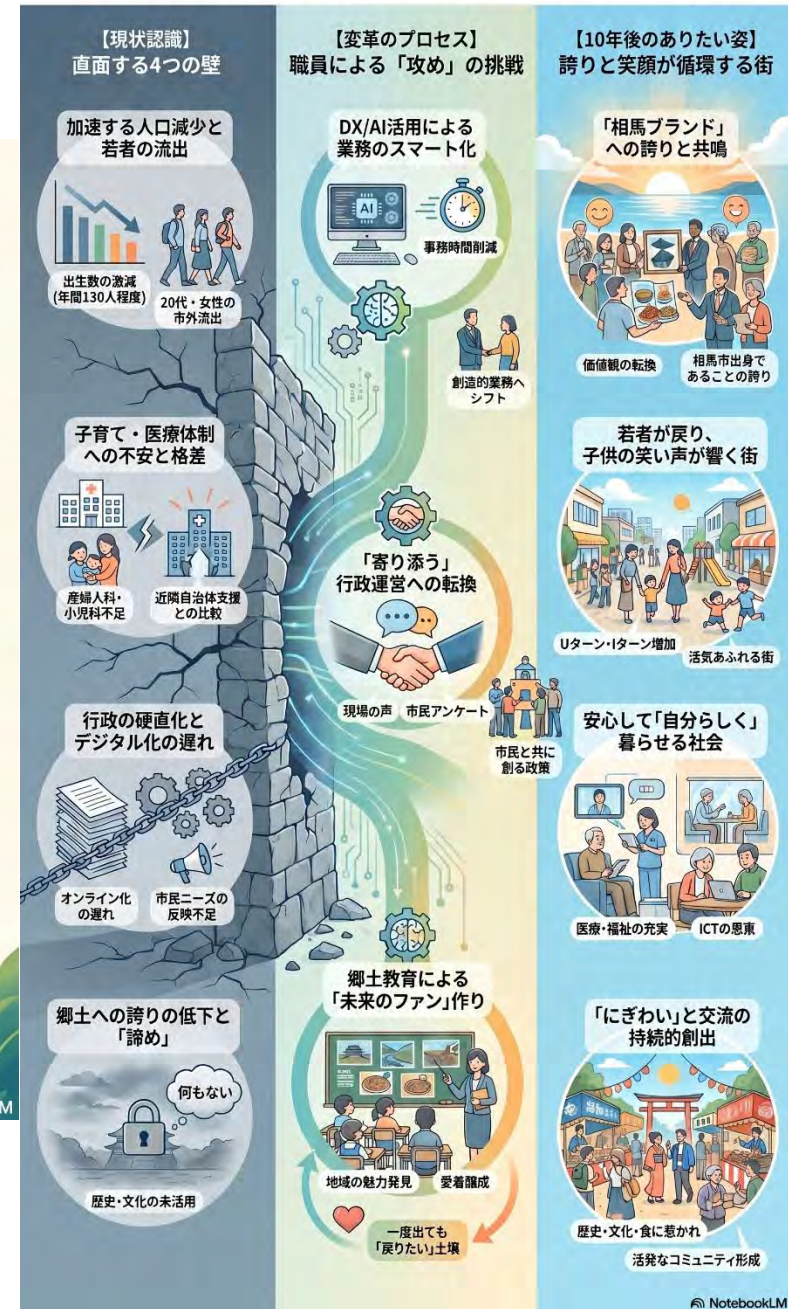
松川浦などの観光資源や農業の活性化、
DXによる業務効率化で持続可能な産業を構築

DXとAIによる業務の進化



定型業務を効率化し、職員がよりクリエイティブな
地域課題の解決に注力できる体制へ

相馬市の未来への挑戦：課題を希望に変える10年のストーリー



●このような図の他に、文字情報としてご意見を集約した成果物も作成します

カードを2～3枚
手に取ってみて下さい



「対話」の補助ツール「SOUNDカード™」

場の活性化を促す「言える化ツール」
どんな話題でも、メンバーでも「対話」が可能

SOUNDカード™の基本動作



カードを並べて選ぶ



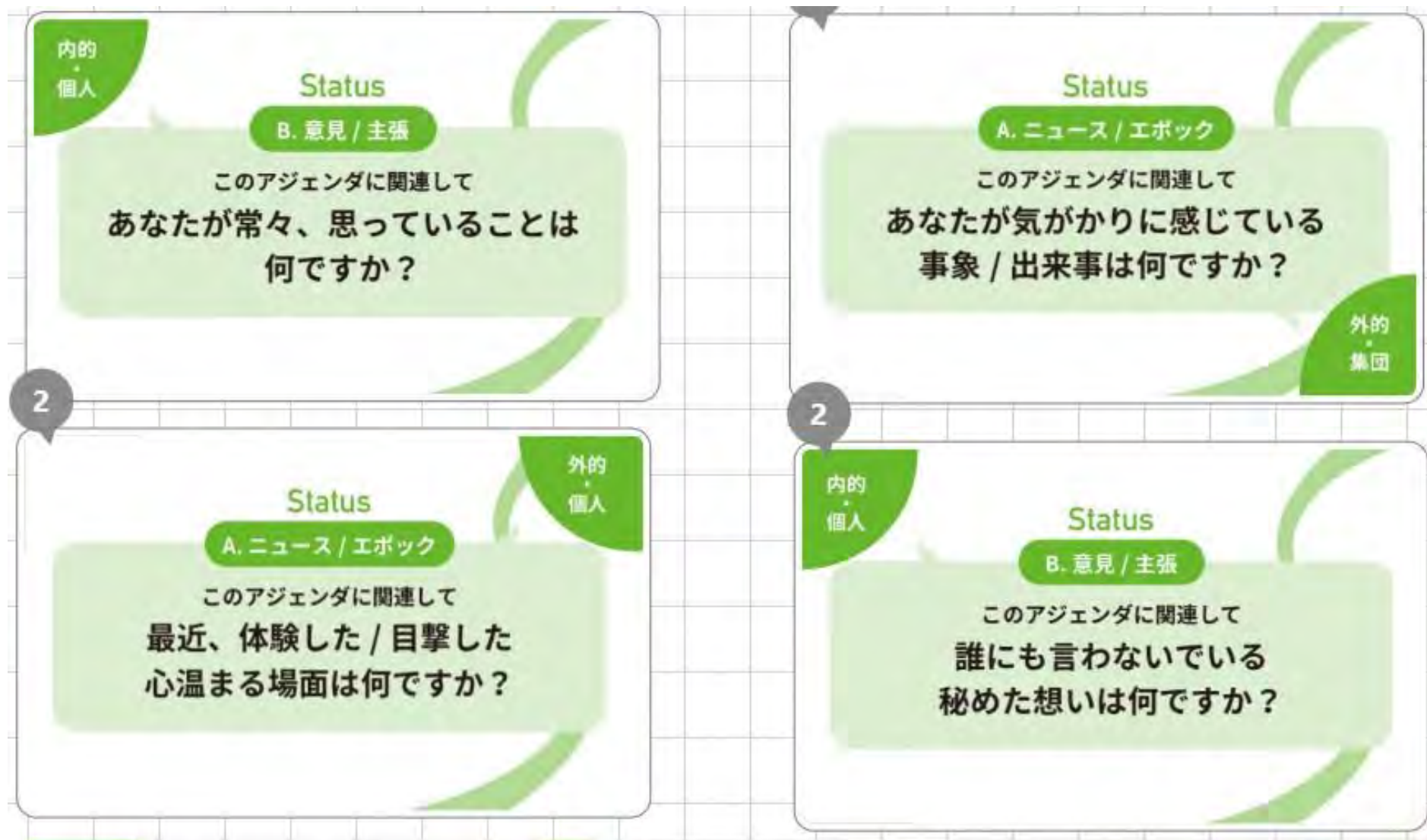
選んだカードについて話す

「対話」の補助ツール 「SOUND カード™」



「SOUND カード™」には「問い」が書かれています

「SOUNDカード™」には、それぞれ違った「問い」が書かれています。



「SOUND カード™」を見やすい様に並べて下さい



〈アジェンダ〉



「最近の仕事（学校） 以外の私の話し」 について

Step 1 Status 現状認識の共有（6分）

アジェンダ 「最近の仕事（学校）以外の私の話し」について

- ☐ アジェンダについて話したいと思う「問い」を立って各自1枚ずつ選び、選んだら座る。
- ☐ 発表の順番を決める。
- ☐ 話し手は、先ず「問い」を読み上げ、その後、1分程度で「問い」に対する答えを述べる。
- ☐ 聴き手は、静かに耳を傾けて、話を聴く。
- ☐ 一巡したら、自由に浮かび上がったことを「対話」する。

「10年後の相馬市の未来」 について



アジェンダ 「10年後の相馬市の未来」について

- ☐ アジェンダについて話したいと思う「問い」を立って各自1枚ずつ選び、選んだら座る。
- ☐ 発表の順番を決める。
- ☐ 話し手は、先ず「問い」を読み上げ、その後、**2～3分程度で「問い」に対する答え**を述べる。
- ☐ 聞き手は、話を聴きながら、出てきた意見のポイントを模造紙に皆で書き出す。 * 隣の人が書く等書記のルールを決めて
- ☐ 一巡したら、自由に浮かび上がったことを「対話」する。

もやもや * 問いのポイント

違和感：

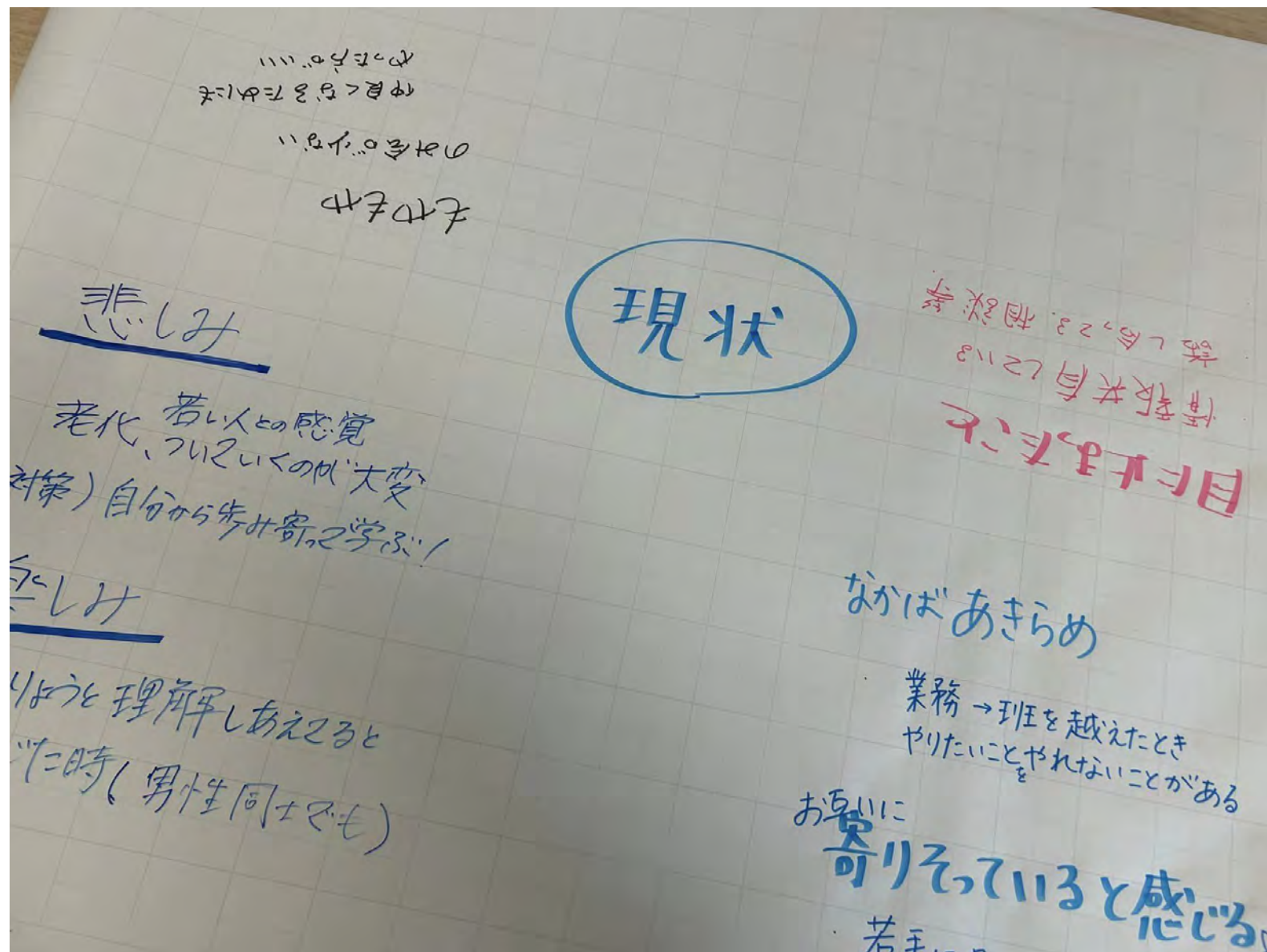
： * 答えのポイント

**10年後の相馬市
(現状)**

パンドラ：

今こそチャンス：

見本



席替え

一名の方がテーブルに残り、
他の方はバラバラになる様に移動して下さい。





自己紹介をしてお待ち下さい。



テーブルに残った方は
模造紙を指さしながら3分で、
他のテーブルから来た方は
前のテーブルで心に残った話を
1分で、共有して下さい。
一巡したら自由に「対話」。

Step 2 Outcome

ビジョンの策定（15分）



アジェンダ 「10年後の相馬市の未来」について

この取り組み 「10年後の相馬市に向けた取り組み」

- ☐ アジェンダについて話したいと思う「問い」を立って
各自1枚ずつ選び、選んだら座る。
- ☐ 発表の順番を決める。
- ☐ 話し手は、先ず「問い」を読み上げ、その後、**2～3分**
程度で「問い」に対する答えを述べる。
- ☐ 聞き手は、話を聴きながら、出てきた意見のポイントを
模造紙に皆で書き出す。 * 隣の人が書く等書記のルールを決めて
- ☐ 一巡したら、自由に浮かび上がったことを「対話」する。

どんな思い願い * 問いのポイント

： * 答えのポイント

共通のビジョン：

**10年後の相馬市
(ありたい姿)**

何でも可能だとしたら：

どんな未来：

**10年後、貴方は、
どんな相馬市であって欲しい
ですか？
自由にお書き下さい。**

【5分】

氏名

個人ワークで書いた内容を共有
して下さい。

【5分】



チェックアウト

